台風災害タイムライン(鯖江市版)

時間	事象·判断指標		## : ** - **	₹ ↓ □ / / + #		+-	与名さんこみキナム 7 は切(ロウ)
	洪水等	土砂災害	鯖江市	動員体制	区長·町内会役員	市民	気象庁から発表される情報(目安)
3日前 (120h~72h)			□対策準備会議の開催 □防災情報の収集・分析・共有 □庁内および所管施設へ連絡体制の確認 □所管する工事現場へ注意喚起 □ハザードマップ、過去の被害実績により、危険性のある地域の確認 □過去の経験や教訓を再確認 □住民への注意喚起 □国、県、気象台との連絡手段(ホットライン)の確認	【準備体制】 (対策準備会議) 対策準備会議関係課長	□住民の避難場所、避難ルートの確認 □周辺の危険箇所把握 □防災用品準備 □テレビ、ラジオ等から気象情報を入手	□避難場所、避難ルートの確認 □周辺の危険箇所把握 □家族との連絡方法確認 □防災用品準備 □テレビ、ラジオ等から気象情報を入手	台風情報(3日先までの位置予報)
2日前 (72h~48h)			□住民への注意喚起 □避難所の開設担当を確認(携帯・かぎ・コロナ対策物品受け渡し) □非常連絡網・配備体制の確認 □防災資機材・備蓄物資の確認		ロテレビ、ラジオ等から気象情報を入手	□窓や雨戸などの点検 □テレビ、ラジオ等から気象情報を入手	
1.5日前 (48h~36h)			□気象台、民間気象会社から台風情報を収集		□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手	ロテレビ、ラジオ等から気象情報を入手	強い降雨を伴う台風の接近・通過 の予想 大雨・洪水注意報、氾濫注意情報
1日前 (36h~24h)			□本部員会議の開催(庁内情報共有) □要配慮者利用施設へ注意喚起 □小中学校・保育所・幼稚園・児童センターの休校、休館、イベント延期・中 止の判断 □住民への注意喚起	(本部員会議) 本部員 防災危機管理課職員2名	□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手	ロテレビ、ラジオ等から気象情報を入手	防災気象情報の提供 危険度を色分けした時系列 警報級の可能性
台風上陸 (24h~4h)			□防災気象情報の把握・収集 □気象台との連絡手段(ホットライン)の活用 □河川水位の把握 □住民への注意喚起 □自主避難者の情報があった場合→関係機関への連絡		□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手 □町内公民館等に集合	ロテレビ、ラジオ等から気象情報を入手 ロ必要に応じて自主避難、市へ連絡	
	水防団待機水位到達 降雨を伴う台風が夜間から明け方に接近・通過し、多 重の降雨予想	から明け方に接近・通過す	□本部員会議の開催(避難体制の検討) □警戒すべき区域の巡視 □ <u>高齢者等避難情報の発令検討→発令→関係機関への連絡</u> □避難所の開設検討・開設準備→開設→関係機関への連絡	【注意体制】 (本部員会議) 本部員 防災危機管理課職員2名、土木 課2名(1/4班)、必要に応じて総 務課1~2名または秘書広聴課1 ~2名	□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手 □地区内の情報伝達(役員、支援者) □避難行動要支援者への連絡 □避難所の開設確認 □避難行動要支援者の避難開始 □自主避難の開始	□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手 □地区内の情報伝達(役員、支援者) □避難行動要支援者への連絡 □避難所の開設確認 □避難行動要支援者の避難開始 □自主避難の開始	
	氾濫注意水位到達		□水防本部会議の開催 □警戒すべき区域の巡視の強化 □河川水位の把握 □防災気象情報の把握・収集 □気象台との連絡手段(ホットライン)の活用 □住民への注意喚起	【警戒体制】1stSTAGE (水防本部会議) 本部員 防災危機管理課職員全員、土木 課4~5名(1/2班)、総務課2名、 秘書広聴課2名	□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手 □継続的な情報収集 □市からの情報収集 □市からの情報を住民へ伝達	□テレビ、ラジオ等から気象情報を入手 □異常を感じたら避難、市へ連絡	大雨・洪水警報、氾濫警戒情報
台風最接近前 (4h~) ▽	避難判断水位到達 氾濫注意水位または避難 判断水位を超えた状態で、 降雨を伴う台風が夜間から 明け方に接近・通過し、多 重の降雨予想	土砂災害警戒情報の発表 記録的短時間大雨情報の 発表	□水防本部会議の開催 □ <u>避難指示情報の発令検討→発令→関係機関への連絡</u> □災害対策本部の設置の検討→設置 □市民へ避難の呼びかけ □市民へ防災気象情報の周知 □警戒すべき区域の巡視 □避難状況の把握、避難所の追加開設の検討		□継続的な情報収集 □市への情報提供	□地区内の情報伝達(役員、支援者) □行動開始(役員) □全員の避難開始 □避難行動要支援者への連絡	大雨特別警報、氾濫発生情報 土砂災害警戒情報、氾濫危険情 報
∇	氾濫危険水位到達 河川の水位が越水、溢水の 恐れがある場合	情報が実況で超過 土砂災害警戒情報の発表、	□災害対策本部の設置 □避難指示の対象地域の確認、追加措置の検討 □市民へ避難の呼びかけ □市民へ防災気象情報の周知 □土砂災害現場の立ち入り制限 □避難状況の把握、避難所の追加開設の検討	【非常体制】 (災害対策本部会議) 各部(班)の必要人員	□地区内の安否確認 □避難所生活の準備・役割分担 □避難物資の要請・受入 □継続的な情報収集 □市への情報提供 □市からの情報収集 □市からの情報を住民へ伝達	□自らの安全確保 □家族の安否確認 □地区内の安否確認 □ただちに避難、外出が危険な場合は 2階等へ垂直避難 □避難所生活の準備・役割分担 □避難物資の要請・受入	
台風最接近·通過 (0h)	大規模災害の発生または発生見込み		□ <u>緊急安全確保情報の発令検討→発令→関係機関への連絡</u> □特別警報が発令されていることを住民に周知 □緊急安全確保の対象地域の確認、追加措置の検討 □災害情報の把握、共有 □緊急工事等の現場対応 □必要に応じ県へ支援を要請	【 緊急体制】 本部の総動員体制	□地区内の安否確認 □避難所生活のルール確認 □避難所生活の役割実行 □継続的な情報収集 □市への情報提供 □市からの情報収集 □市からの情報を住民へ伝達	□命を守るための最善の行動 □自らの安全確保 □家族の安否確認 □地区内の安否確認 □避難所生活のルール確認 □避難所生活の役割実行	

[※]台風災害以外の風水害についてのタイムラインは、気象情報等から判断し適宜有効活用するものとする。